

## 定例記者会見

日時 令和6年2月14日(水)

午後1時から

場所 市役所3階 大会議室

### 発表項目

#### 令和6年度当初予算(案)及び令和5年度3月補正予算(案)の概要(資料1・2)

令和6年度の当初予算は、物価高騰や国土強靱化などの国の経済対策の活用や1月に起きた「令和6年能登半島地震」に迅速に対応するため、一部事業を令和5年度に前倒し、3月補正予算と一体化した、いわゆる13か月予算を編成したところです。

また、いよいよ、来月16日に迫りました北陸新幹線越前たけふ駅開業や大河ドラマ「光る君へ」など、絶好の機会を活かした本市の魅力発信をしていきたいと思っておりますし、また市民生活のベースとなるこども・子育て世帯の支援や人生100年を幸せに暮らせるような予算配分を行いました。

予算の規模は、過去最大の379億6,400万円です。

特別会計は、介護保険や後期高齢者医療特別会計の増により、170億1,833万8千円。

企業会計は、下水道事業会計の減により、86億5,229万6千円。

全体として、636億3,463万4千円となり、前年度と比べ0.8%の増となりました。

なお、財源については国・県補助金や基金繰入金、交付税措置が有利な起債を活用したほか、予算要求の段階で、義務的経費や投資的経費を除いた経費についてマイナス5%のシーリングを設定しました。また、スクラップアンドビルドを徹底するというので、これらによって、約5億円余りの財源を捻出したところであります。

最終的には、財政調整基金の取り崩し額は前年度を下回る5億9,800万円、当初予算編成時での残高は、一応の目安となる本市の標準財政規模の5%である10億円を上回る11億5,642万7千円を確保しました。

令和6年度の主要施策は、北陸新幹線開業、大河ドラマを活かした魅力発信、こども・子育て世帯と健康で長寿を支える取組みの充実、国の物価高騰対策への迅速な対応、能登半島地震を踏まえた国土強靱化、安全安心なまちづくりの4つ、これを徹底することを考えています。

予算のポイントについては、市総合計画の6つのテーマごとに整理しております。

6ページですが、来週23日、ドラマ館がオープンします。ここでは、ドラマに関連する衣装や映像とか、ここでしか見られないものを展示するというふうに考えております。

大河ドラマの中で越前市の場面が放映される時期に合わせて、パブリックビューイングなども企画をしておりますし、10月には、父為時とともに京都からこの越前市に向かう旅「紫式部の旅」を再現するようなプロジェクトも予定をしております。これに関する予算を計上しています。

そして、越前国府の発掘現場です。4ページですが、R5年度に実施したところ(青色)の横(黄色)のところを5月から7月頃に調査をやる予定であります。区画の溝が今年度見つかったわけですけども、これを図面右側に伸ばすような部分を予定しています。

そして、ここでの発掘状況を、速報展示ということで武生公会堂でも展示をいたしますし、さらに、

現場において、何らかの形で見れるように、写真ですとかQRコードを使った画像ですとか、そういったものを用意して、現場に行って、去年掘ったところはもう埋め戻していますので、その掘った状況が見れるように、あるいは、当時の 国の役所が再現されて見れるように、そういったこともこれからやっていきたいと思っています。

大河ドラマ館が中心になるわけですが、中央公園もありますし、さらに、紫式部公園に向かって散策できる散歩道もあります。これも整備をしております。

大河ドラマ館もあり、公園もある、発掘の現場があって、公会堂があって、和紙の里など、市全体をミュージアムというふうな位置付けをしましてやっていこうと思っています。

ミュージアムの全体像については、この 5 ページの表です。それぞれの時期に応じて、様々なプロジェクトを予定しているところであります。

そして、6 ページにあるような、いろんなところを巡っていただいたり、食べていただいたり、体験していただくというふうなプロジェクトをこれからいよいよスタートさせていくということでありまして、新年度は、その本番ということでもあります。

これが 1 つ目であります。

2 つ目は、7 ページ目から 10 ページ目にかけてであります。

子ども・子育て支援ということで、様々な支援を行っているところです。

本市におきましても、今年の 4 月に「にじいろこども園」を開園いたします。その中に乳幼児教育保育支援センターというものを置きまして、市内全域にわたっての就学前教育あるいは保育に関するサポートを行う、公私ともにサポートを行う機能を持たせる、それによりまして、市全体の質の向上を図っていこうということでもあります。あわせまして、市民プラザにこども家庭センターを置きます。

ここで母子保険と児童福祉を一体的に運営する、具体的に言うと、子育て世帯の孤立を防止したり、虐待などを予防するとそういったことを、早い段階から察知をし、ケアをし、相談したりフォローしたりする、そういう機能を持たせようということでもあります。

8 ページ目の上にありますように、子どもの医療費の無料化につきましては、今年度から実施しておりますけれども、全ての子どもがサービスを受けられるように、県においても、無料化対象年齢を 18 歳まで引き上げるよう継続してほしいところでもあります。

妊娠から出産、子育てまで、全体として、不妊治療の 8 ページの上の図をちょっとご覧いただきたいんですけども、不妊治療費の無料化、そして、今回は産婦検診の支援、これは助成上限 5,000 円の支援を行います。さらに、産後のケアのための施設利用料の減免をするということでもあります。そして、様々検診等ありますけども、子ども医療費の無料化ということで、一貫した助成を行っていきます。子どもを産みやすい、育てやすい環境を作っていこうということでもあります。

それから、国民健康保険でございます。9 ページになりますが、これは、今回、県は令和 8 年度を目標として、資産割を廃止しようということではありますが、これを前倒して、令和 6 年度から資産割を廃止することとしております。

そして、同時に物価高騰等もありますので、その他の税率、税額については据え置きたいと考えております。

今のところ、国民健康保険、平成 30 年から黒字化しておりますので、全体として安定した財政運営を行う中で、物価高騰等にも対応したいということでもあります。

そして、介護保険の関係ではありますが、まずは、その介護を支える人たちの人材の育成と、フレイル予防の徹底、さらに、介護人材の確保、在宅介護に必要なおむつの提供を行うということにしております。

10 ページの下です。在宅介護用品支援事業ですが、令和6年度からは本人に住民課税されている場合にも対象としますし、世帯の課税区分についても撤廃をし、それぞれ記載の要介護度に応じた助成額を提供し、これは助成券という形で、紙おむつ・尿取りパッドの引換券をお渡しするというふうな支援を行うこととしています。

この上の介護保険料につきましても、基準額を細分化しまして、市独自の軽減額も加えているということで、国民健康保険、介護保険での軽減措置を少しでも講じていくということでもあります。

それから、11 ページ目は、物価高騰対策でも、既に12月議会において、住民税の非課税世帯への給付を行いまして、12月末には、振り込みを行うことができました。そして、住民税均等割の非課税世帯への給付ということが、昨年12月に方針が決まりました。そこで、議会のご理解を得まして、1月末に専決処理を行わせていただきました。この結果、3月中旬には、初回の振り込みができる予定であります。今後も色々な給付が出てきておりますが、情報を的確に把握しながら、給付が遅れることがないようにしっかりとやっていきたいと思っております。

次に、12 ページ目からは、国土強靱化、あるいは安全安心なまちづくりであります。

何度も申し上げますけども、市では災害協定を結んでいる七尾市・高岡市に職員派遣・物資支援を行っているところです。

職員派遣は、1月末の段階で延べ201人、2~3月に延べ400人の派遣を予定しています。さらに、今回、3月補正あるいは予備費も活用しながら、物資をお送りしたり提供したり、あるいは、提供した備蓄品の補填なども行っておりますし、被災者の県外避難用に市営住宅へ住めるように修繕を行っているところであります、できる限りの支援をやっていきたいと思っております。

一方で、これは決して人ごとではなくて、我々自身の問題でもありますので、この12ページの下にありますように、市民に身近な施設である公民館、あるいは武道館などの耐震改修も計画的にはありますけども進めていくということでもあります。

能登半島地震を受け、耐震診断や補強プランは1万円で作成できること、150万円までの耐震改修工事は自己負担なくできること、危険なブロック塀は2/3補助で除去、建て替えることの周知を行い、地震への備えを促進していきます。

能登半島地震を見ると、やはり家屋が壊れて道を塞ぐと、そうしたことが、救出あるいは復旧のための大きな妨げになります。あるいはブロック塀も震度7になると根っこが潰れてしまうということで、これまでの診断と言いますかチェックでは足りない可能性もありますので、既に危険なブロック塀の除去事業というものがありますし、除去だけでなく、これを県産材に建て替えた時の応援もありますので、こうしたものをもっと徹底して、市民の皆様にお知らせをし、活用を働きかけることによって、改修が進む、あるいはブロック塀の改修が進むように、ゼロ予算でありますけども、既存の事業、さ

らに拡充される事業を最大限使えるように、今から精一杯やっていきたいと思っております。

UIJ ターンの関係では 14 ページ目ではありますが、移住支援について、これまでも色々やっておりますが、子育て世代を特にターゲットと言いますか、焦点を当ててやろうということで、子ども加算を、1 人当たり従来 5 万円でしたけども、これを 20 万円に拡充するなど、子育て世帯に特化した加算要件を設けまして、最大 128 万円という県内トップクラスの支援を行いますとともに、Line ですとかメタバースの移住相談会などの情報提供手段を講じまして、子育て世代を呼び戻す、あるいは来ていただく、そういった政策が、この少子化、人口減少、超高齢化の中で、極めて重要な政策だと考えておりますので、ページに記載のような様々な事業を展開したいと思っております。

あわせて、この 15 ページにありますように、これはあまり他ではないですけど、新築住宅支援を継続しますとともに、中心市街地での中古住宅の取得支援、これも 30 万円から 40 万円にするということで、やっぱり空き家が 街中でも増えておりますので、空き家につきましては、店舗にするとか、宿泊所にするとかということも進めております。

16 ページ目は、上の方は、ユネスコ加盟を目指した活動のための予算でありますし、下の方は、大瀧神社、これは、建物を再調査し、今は国の重要文化財であります。さらに、その段階でランクアップできないかということ、文化財専門家の方のご指導をいただきながら進めていきたいというふうに考えています。

それから、産業関係ですけれども、これまでもご説明申し上げますように、福井村田製作所エリアに、新しい周辺整備を行っていききたいというふうに考えておりますので、その関係の予算であります。

18 ページですが、越前和紙の里のエリアにつきましては、エリア高付加価値を目指すということで、県のスケールアップの事業を活用しながら、全体としての整備を進め、今回の紫式部のプランとも大いに関係いたしますし、下にありますように、鳥の子紙のユネスコ無形文化遺産追加登録の可能性が一気に高まりましたので、これらと合わせて、やはり新幹線の開業、認知度アップ、ここに来ていただくための、その場所の磨き上げ、和紙の里の磨き上げというものをしっかりやっていきたいと思っております。

20 ページからであります。有機農業をさまざま進めてきておりますが、水稻の面積拡大、あるいは野菜の減農薬ですね、まずはそういったことを支援するほか、越前たけふ周辺での麦畑、そばの花畑計画、こういったものを新幹線の開業と合わせてやっていきたいと思っております。

22 ページであります。森林環境税、いよいよこれを使っていくということであります。新たに高性能林業機械のレンタル、あるいは竹を粉碎するウッドチップパー、村国山の公園の再整備など、少しでも山に入り、山の木を活用する、あるいは、山に親しむ、今プランを作っておりますけども、それに基づいて実行していくということであります。脱炭素の関係は、ページ目にありますけども、これは、県の事業であります。蓄電池とセットでの太陽光発電ということで、自家消費型というところが従来と違うところです。自家消費型の太陽光発電設備、これを県と一緒に進めていきますし、すでに

今年度から始めております公共施設の照明のLED化、これも2年目に入りますが、こうしたことによりまして脱炭素化を進めていきたいと思っております。

次に、24、25ページでありますけれども、人生100年を健康で長生きするというところであります。そのために、ICT機器を使った健康状態の把握、そして改善を進めるというのが今のところであります。健康保険の特別会計によって実行しようと思っております。

それから、プレフレイル、虚弱ですね。虚弱の前段階、プレフレイルあるいはフレイルになりそうな人を見つけ出して、運動教室をやるというふうなことを、これも徹底してやりたいと考えております。

25ページの下の方です。これは、介護人材を確保するために、さまざまな支援事業、看護、介護人材をキャリアアップし、さらに定着するための奨励金を用意するものであります。

26ページの上です。児童手当、これは、国の方の制度改正によりまして所得制限が撤廃される等々の改正がありますので、これにに応じて、しっかりとやっていきたい。ただ、これは児童手当だけではうまくいかないですね。保育所の整備あるいは保育の質の向上、保育士の確保、そういったものを総合的にやることによって、子育て環境が素晴らしいというものを作っていこうと思っているところであります。

28ページ目をご覧ください。eスポーツは、若者もそうなんですが、高齢者の方もeスポーツという形で、様々な刺激と言いますか、脳機能に非常に役立つんだというような話もあります。地域の居場所づくりや、これを通じた絆づくり、そして、若い人たちを呼び込む手段ですけど、eスポーツの拡大を考えています。

29ページの上の予算であります。しきぶ駅の予算であります、総額10億円の事業ということですが、先日、ハピラインふくいの取締役会で正式に名前が決まりました。この周辺に式部関連のものもありますし、大河ドラマは、今年1年で終わりますけれども、この後も、この周辺を紫式部の気分を味わう、式部のことを思い起こす場所になる、代表的なブランディングにも役に立つということで、しきぶ駅の整備を行うということでもあります。

駅前広場の図柄は29ページ下のとおりであります。ロータリーあるいは駐車スペース、こういったものも併用しているところであります。それから、交通関係がありますが、30ページの上の方であります。従来の自家用車社会、あるいは路線バス、タクシー、いろんなものの交通手段が非常に厳しい局面になっています。私の考えとしては、今、そういう転換期でありますので、様々な手段を実証しながら、市民の皆様の声を聞いて、これを多様なものを組み合わせることによってしか解決できないのではないかという風に思っております。とりわけこの30ページの下にあるように、運転手さんが足りない、市内に50台以上の車はあっても、運転手さんの関係で半分ぐらしか動かせないという状況もありますので、今回は、二種免許取得、あるいは車両の入れ替え、さらに奨励金を出して、とりわけ今回、女性あるいは外国籍の方々の運転手さんとしての就労を図ってきたいなというふうに考えております。

31、32ページは、安全安心、道路の補修、あるいは、避難情報の提供のための配信ツールの整

備であります。1点だけ申し上げると、3台ですけれどもカメラを設置して、市民の安全確保に努めたいというふうに考えているところであります。

最後に34ページ目、斎場ですが、今の斎場がもう52年以上経過しているということで、やはり、市民の皆様の利便性を重視しながら、建て替えの準備に着手をしたいということで、新年度、基本設計を行う予定をしています。

3月補正予算につきましては、基本的に先ほど申し上げた能登半島地震への対応、あるいは、国の経済対策を活用できるところは活用しようということで、道路や橋の整備、あるいは、並行在来線ハピラインふくいの新駅設置への支援、その他除雪関係、地方バス等、必要な予算を計上しておりますので、ご覧いただければと思います。

#### 質疑応答

【質疑】過去、最大の予算ということで、1番、力を入れられたところ、特にここに対応したところを教えてください。

【回答】この予算規模が最大になった背景としては、やはり、会計年度任用職員の処遇をしっかりとしたい、これは日本全体の賃上げとか処遇の改善に対応した部分がありますし、いろんな諸経費が上がったということで、規模的にはそうなったということでもあります。

ですから、なんか特別大きい予算を組むことによって結果は大きくなったということではありませんが、そういう中でも、やはり新幹線の開業対策、大河ドラマ、そういったものを受けて、少しでも、この地域を知ってもらう、来てもらう、そのために、政策に特に力を入れまして、一方で、やっぱりそういうものの目的というのは、人生100年、みんな幸せに暮らすためにいろんなことやっているの、子どもの時代、子ども自身の応援、あるいは子育て世代の応援、それから、企業誘致によって働く世代の応援、さらには高齢者のための介護とか医療とか、そういったことをやるっていう、この両方ですね、この2点に気がつけました。

さらに言うと、今回、地震もありましたので、安全安心についても、これはまだ予算の形にはなっていないものも含めてですけども、特にこの3点は、力を入れているという考えであります。

【質疑】魅力発信とか観光誘客で、越前和紙に関連して、この一年は、ポテンシャルをどのように捉えていて、それによって、どんな地域づくり、いろんな展開を導いていきたいかというようなことを考えていますか。

【回答】ここでの長い歴史と文化の1番ベースのところに、やっぱり、1500年前の形態に、オールド、古来の、その歴史が今も息づいているっていうところが、まねできない、最も強い根っこのところだと思うんですね。それが形として残っているのが、越前和紙であり、鯖江市ですけど、漆器ですね。この2つは、当時からのこの脈々とした歴史と文化がうまく息づいているという、要するに本物なわけですね。一朝一夕になんか、作りものみたいにすぐにできるものじゃないっていうことなんですね。

そういうこともあるので、ユネスコも、世界文化遺産にしようとしておりますし、紫式部のもですね、この間、プロデューサーが言ってたように、越前和紙との出会ってというのが描かれ

る。実際に多くの学者は、やはり、和紙との出会ってというものが源氏物語にも繋がったんじゃないかというふうな転機となったってことがあると思うんですね。ま、そういう本物がある。そして、大河ドラマというきっかけがあり、新幹線というきっかけがあるので、その最大の資源を磨き上げて、この越前市を知っていただいただく、あるいは来ていただく、その武器にできると思います。

ただ、ポテンシャルはあるんですけども、今の状況でどんどん人が来て楽しめるかという、まだその域にはまだまだやるべきことがあると思っています。そのために、研修施設でありますとか、エリア全体の磨き上げでありますとか、せっかく素晴らしい大瀧神社なんだけども、そこのレベルアップを図るとかですね、色々なものを全体としてこうレベルアップしながら、訪れて、できればあの辺りに泊まっていたいただいて、食事をしていただいて、体験していただく、そういう他に真似できない最強のエリアにすることができるポテンシャルがあるなというふうに思っています。

そういう機会に一気にそれを進めて前に進めていきたいという、そういう思いであります。

【質疑】今、大体どれぐらいの観光入り込み数をどれぐらいに持っていくかという、数値的なものはありますか

【回答】今、令和5年の1月から12月までの見込み数を集約して、県などに報告するというようなところで作業をしているところでございます。まだ数字の方は出ておりませんが、令和6年度においては、350万人を目標値というところで定めております。

昨年度の数字はありますので後ほどお示しします。

350万人は令和9年度の目標なんですけれども、令和6年度は、新幹線開業もありますので、それを含めて令和6年度は、350万人。9年での目標を前倒して実現しようということです。

従来の観光統計のやり方ですけど、スポット、スポットの数字を積み上げて数字を出しておりますので、350万人にしたいということです。

#### 発表項目

##### 北陸新幹線越電北陸駅開業記念 越前市ふるさと納税返礼品について

商品については、後ほど内田さんから説明していただきます。内田さんをご承知のように、千年未来工芸祭をやっていたいただいており、幅広いネットワークを持っていらっしゃるということでお願いしたわけでありまして。今回、新幹線の開業に合わせて、返礼品として、全部で8種類の、開業記念ふるさと納税返礼品を企画したものであります。名前は、越前たけふ駅開業記念プレミアム セレクションです。

これを今、発表させていただくことによって、あと1ヶ月になりました、駅の開業を盛り上げ、そして、丹南エリア全体の伝統工芸をアピールし、知っていただいて、来ていただく、そういうきっかけにしようとするものであります。中身は、本市の和紙、箆笥、打ち刃物、鯖江市の漆器、越前町の越前焼で

あります。これらを、寄付額に応じて、何種類かのセット商品を作ったということで、伝統工芸品のセット品の返礼品ってというのは、これまでやったことがないので初めてとなります。前々からやりたいなと思っていましたが、なかなか形にできなかつた。今日から、寄付申し込みの受付を開始しております。

サイトとしては、ふるさとチョイス、楽天ふるさと納税、さらに、3月の上旬には、さとふる、ふるナビでも受付を開始したいと思っております。寄付額は、5万、10万、15万、20万円の4コースであります。

種類は8種類ありまして、最大全部、5種類全部組み合わせたセットになっております。それでは、その中身につきましては、内田さんからご説明をお願いいたします。

・株式会社ヒュージの内田代表から説明

#### 質疑応答

【質疑】今回の商品は、ふるさと納税の返礼品用に新しく作られたものとか、そういうのはないのですか。

【回答】新しく作ったのが、このバックになります。その他は既存のものになります。

【質疑】それぞれ5万円から20万円までの還元率ってどれぐらいになってるんでしょうか。当然、その限度内でされてると思いますが例えば10%、20数%あるのかとかですかね、それによって、多分だいぶ違ってくると思うんで、もし聞けるようであれば。

【回答】寄付額と負担額は別なんで、5万円寄付しても、結局個人負担は2000円っていう事務経費だけですので、そういう意味で言うと、還元率が高いかどうかです。。この5万円を別に使うか、ここに使うかっていう時には、おっしゃるように、少しでもこう、寄附が大きい方っていう選択にはなるかもしれません。

【質疑】鯖江市さん、越前町さんと按分するのですか。

【回答】これはすべて越前市のものとなります。

【質疑】全体的に女性をターゲットとしていますか。

【回答】はい、全体的に女性をターゲットにはしています、やっぱりイメージ的に、ふるさと納税って、税金の高い方なんですけど、割と選ぶのは、旦那さんの収入の税負担分を奥様が選ぶっていう傾向も多いらしいんで、女性が好むような商品にしています。

駅とかでも、今回、広報する予定だと思うんですけど、こういった女性が、ぱっと目を引いて欲しいって思う方の方が、やっぱり女性が多いなって思いますので、こういった商品構成にしています。

#### 発表項目

北陸最大級デジタルエンタメしきぶきぶんまつりの開催について

・Activ8株式会社 大坂社長、吉田氏から説明